

項目	ご意見、ご質問 概要 (地) 地域懇談会での発言・アンケート記述より (中) 中学生・(保) 保護者の意見(中学生とその保護者との意見交換)より	回答・コメント
「探究的な学び」と「信州学」の推進について	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究的な学び」の普及による表現力やコミュニケーション能力を培える授業に期待。(保) ・「探究的な学び」をすべての高校に導入する「新たな教育の推進」に期待。方向性を支持する。(地) ・「探究的な学び」を深める学科を多くの学校に設置してほしい。(地) ・「探究的な学び」により基礎学力が不足しないか。進学のための力が養われるのか不安。(地) ・「探究的な学び」で大学入試に対応できるのか。(地) ・国際化の中で自らの地域を知り、理解する「信州学」は重要。「信州学」に期待したい。(地) 	<p>○「探究的な学び」を中核に据えて、すべての高校の学びをこれからの時代に必要とされる新しい学びに転換します。これが結果として進学等のための力の育成につながると考えています。また、「信州学」を「地域に根ざした探究的な学びの総称」と位置づけて推進していきます。(方針1)</p>
地域との連携・産学連携等について	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究的な学び」は小中高で連携して取り組んで欲しい。加えて、地域、行政、産業界、大学との連携も必要。(地)(保) ・高校の教育活動における行政、地域、大学、企業等との交流促進、連携強化を求める。(地)(保) ・県立高校存続のために地元自治体の支援を望む。(地) ・財政規模の小さな町村に負担をかけずに教育条件の整備を。(地) 	<p>○すべての高校が「教育課程編成・実施方針」(CP)の作成に際しては、「社会に開かれた教育課程」の観点から、地域や外部団体との連携を視野に入れていきます。(方針1)</p>
高校の魅力づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の魅力づくり、特色づくりの推進を。魅力や特色が地域、中学生、保護者に伝わる工夫を。(地)(中)(保) ・各校の魅力や特色づくりが県立高校への進学者増につながる。(地)(保) ・他地区や他県に流出しないよう、各校の魅力づくりを推進すべき。(地) ・県教委がどのような学校を「魅力ある学校」と考えているのか教えてほしい。学校に魅力・特色があれば存続できるのか。各校が魅力づくりを進めるとして、その成否を誰がどう評価・判断するのか。(地) 	<p>○高校がそれぞれ特色を持ちながら新たな学びへ転換するために、「3つの方針(DP,CP,AP)」を策定します。また、「生徒育成方針」(DP)の実効性を検証するフィードバックシステムを構築します。(方針1)</p>
高校の再編統合について	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育の推進と新たな高校づくりを支持。再編統合は必要。基準に則して着実に推進を。(地) ・再編統合し、適切な規模を確保し、教育内容の充実を。(地)(中)(保) ・将来を展望した子ども本位の視点から地域の高校のあり方を考えた改革推進、高校再編を望む。(地) ・少子化が進む中で、再編が進むことはやむを得ない。(地) ・高校の再編統合と「新たな教育の推進」は別々に議論すべき。(地) ・現状の学校数維持、現在ある高校の存続を望む。(地)(中)(保) ・どの高校にも存在意義がある。残す方向で施策の検討を願う。(地)(保) ・専門科の再編や学級数減には反対。中学生の選択肢を狭める。(地) ・他通学区からの流入の多い地域では、他の通学区も視野に入れた再編統合を検討してほしい。(地) ・旧通学区を検討のベースにしている理由は何か。広域や全県的な視点での検討はするのか。(地) ・地域の高校を残してほしいとの思いを県教委はどのように受け止めるのか。(地) 	<p>○さらなる少子化の進行に的確に対応するとともに、多様な学びの場を全県に適切に配置する方針に基づいて再編整備計画を策定します。新たな高校配置は、地理的な条件や通学の利便性に配慮することに加え、地域の子どもたちを地域で育てる観点からも、実質的な生活・通学圏域である旧12通学区単位を基本に検討します。(方針4)(方針5)</p>

項 目	ご意見、ご質問	回答・コメント
<p>高校の再編基準について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの改革 基本構想」の望ましい学級規模に賛同する。都市部存立普通校の一定規模確保を。(地)(保) ・再編基準の根拠を明確に示してほしい。(地)(保) ・地域に根ざした教育を行うため再編基準を弾力的に運用すべき。(地) ・「学びの改革 基本構想」の再編基準を見直すべき。(地) ・「都市部存立普通校」も魅力ある学びが可能なら4学級規模で良い。(地) ・「都市部存立普通校」はなぜ募集学級数6学級以上が理想なのか。(地) ・「地域キャンパス」と「中山間地存立特定校」の募集停止の基準「60人以下が2年連続」の根拠は何か。(地) ・「地域懇談会」で出た意見を踏まえて、今後、再編・統合などの基準の変更の可能性はあるのか。(地) 	<p>○近距離に複数校が存在し、学びの場が確保されている都市部においては、小規模校分立の状況を回避し、教育効果・投資効果の最大化を目指します。これからの子ども達のために、できる限り早期に、新しい時代にふさわしい新しい学校を再編整備します。また、学びの場の保障が必要な中山間地においては、魅力的な学びの場の創造に向けて、地域と協力した最大限の努力を行っていきます。</p> <p>(方針4)</p>
<p>都市部と中山間地の高校のあり方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部にも中山間地にも高校を存立させてほしい。(地)(中)(保) ・「都市部存立校」と「中山間地存立校」の学びは同じであるべきだ。(地) ・県全体、地域全体のバランスを考慮した高校配置の検討が必要。(地) ・20～30年先を見据え地域の高校の規模と配置の適正化を行うべき。(地) ・地域性を考慮し、都市部にスケールメリットを活かした高校づくりを。(地) ・「中山間地存立校」の取組を尊重して再編の検討を。(地) ・中山間地の高校に生徒を呼び込む魅力の創出を求める。(進学特別コース、寮、中高一貫校)(地) ・学習塾のない地域では進学補習等を充実させてほしい。(保) 	<p>○すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びの実現を目指していきたいと考えています。そのために、総合学科や多部制・単位制、総合技術高校の充実・拡大、通信制の改革、モデル校方式による新たな学びの場の創造等を進めていきます。</p> <p>(方針2)</p>
<p>これからの時代にふさわしい教育のあり方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの進路希望に応えられる教育の質を維持し、多様な選択肢が可能となる改革を。(地)(中)(保) ・子どもたちが切磋琢磨できる環境を整備してほしい。(保) ・長野県の学力低下問題に対処し、全国や世界に通じる学力、体力、人権感覚の涵養を。(地) ・中高一貫校、SSH、SGHなどの多様性は大切。同等の学びの場がどの地域でもできるように望む。(地) ・グループ学習や習熟度別講座編成、少人数授業の実施を。(中)(保) ・わかりやすく興味の持てる授業を望む。(中) ・進路指導体制の充実を望む。(中) ・キャリア教育を充実させてほしい。社会性を身につけるためにはアルバイトも有効。(中)(保) 	<p>○すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びの実現を目指していきたいと考えています。そのために、総合学科や多部制・単位制、総合技術高校の充実・拡大、通信制の改革、モデル校方式による新たな学びの場の創造等を進めていきます。</p> <p>(方針2)</p>
<p>多様な学びの場の確保について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的なことを学べて、さまざまな資格が取得できる高校を望む。(中) ・専門科をひとつにまとめ、活気ある学校規模に再編してほしい。(地) ・総合学科は進路決定に向けた幅広い選択が可能。拡充の検討を。(地) ・南信への総合学科高校の設置を検討してほしい。(地) ・私立の広域通信制等が台頭する中、北信に多部制・単位制高校を設置してほしい。(地)(保) ・北信地区の多部制・単位制高校の設置を県教委はどのように考えているのか。(地) ・南信地区の多部制・単位制充実を。飯田地区に多部制・単位制高校や特別支援学校分教室の設置を。(地) ・既存の夜間定時制の存続を。定時制専門科の普通科転換についても慎重に検討してほしい。(地) ・退学者、転編入希望者への対応策を検討してほしい。(地) ・私立高校の学校づくりを公立高校も見習い、特に松本市内普通科4校の特色づくりを行うべきだ。(地) 	<p>○すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びの実現を目指していきたいと考えています。そのために、総合学科や多部制・単位制、総合技術高校の充実・拡大、通信制の改革、モデル校方式による新たな学びの場の創造等を進めていきます。</p> <p>(方針2)</p>

項 目	ご意見、ご質問	回答・コメント
特別活動・部活動の充実について	<ul style="list-style-type: none"> ・存分に部活動等のできる学校規模は必要。(地)(中)(保) ・合同チーム等、再編対象校の部活動等への配慮を求める。(地) ・部活動を専門性の高い顧問に指導してもらいたい。(中) ・部活動における他校との交流を促進してほしい。(中)(保) ・全校の生徒が参加する生徒会活動を展開できるとよい。(中) ・社会に参画する意欲、経験を醸成する自治的な生徒会活動を。(保) ・もっと地域の方々と関わることのできる学校行事があると良い。(中) ・学年の垣根を超えた交流を促進できる高校があると良い。(中) 	<p>○各校が「3つの方針(DP,CP,AP)」を策定することにより「育てたい人物像」(学校目標)に向けて教育活動を体系化します。その中で、特別活動・部活動については「教育課程編成・実施方針」(CP)において、どのように展開するかを示し、充実を図ります。</p> <p>○部活動外部指導者等の配置等、外部人材・専門人材の活用を進めます。(方針1)(方針3)</p>
特別支援教育の充実について	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育充実の視点を今次改革に強く求める。(地) ・不登校、発達障がい、支援を必要とする生徒のための少人数で個に応じた教育ができる高校づくりを。(地)(保) ・支援の必要な生徒に対する教員の指導力向上を望む。(保) ・再編統合校を特別支援学校分教室として利用すべき。(地) ・特別支援学校分教室の設置、通級指導体制確立を。(地) 	<p>○平成30年度から通級指導教室を順次設置していくとともに、専門性を持つ特別支援学校の教員による高校への巡回相談・支援の実施を検討します。また、高校に併設する高等部分教室では、双方の教員が専門性を活かして、相互に支援する体制を強化します。(方針2)</p>
入学者選抜・募集定員について	<ul style="list-style-type: none"> ・県外募集を行うべき、あるいは進めるべき。(地) ・山村留学生の県内高校進学がかなうよう検討してほしい。(地) ・公立高校の募集定員増あるいは募集定員の見直しを要望。(地) ・少子化が進行する中、私立高校への対応はどうするのか。募集定員の公私の比率は変えるのか。(地) 	<p>○高等学校入学者選抜制度等検討委員会の提言を受け、入学者選抜制度の改革を行います。(方針1)</p>
少人数学級・教員の配置について	<ul style="list-style-type: none"> ・高校においても少人数学級を導入すべきだ。県単独予算で実現を。(地) ・1学級40人の根拠はどこにあるのか。なぜ標準法ベースなのか。少人数学級の県単独措置は考えていないのか。(地) ・「探究的な学び」は40人学級で可能か。(地) ・「探究的な学び」実施には少人数学級導入や教員数増が必要。(地) ・中山間地校や専門校から少人数学級を導入し、多くの高校の存続を。(地) ・「中山間地存立校」から少人数学級や環境整備を行うべき。地域の実情に合わせた学級編成を。(地)(保) ・学校維持のために少人数学級にしても、小規模で高校としての学びを保障できるか疑問。(地) ・少人数学級が可能なら既に行っている。厳しい財政状況下の少人数学級要求には無理がある。(地) ・教科の授業は少人数が良いと思うが、1クラスは40人位の方が、子供が生き生きするのではないか。(地) ・「主体的で対話的な学び」は少人数でなくても可能。指導力ある教員がいれば少人数学級は不要。(地) 	<p>○「探究的な学び」のための少人数学習集団編成を推進するとともに、学校の課題や生徒の状況に応じた少人数の生活集団の導入についてモデル校を設置して研究します。(方針2)</p>

項目	ご意見、ご質問	回答・コメント
学習環境・生活環境の整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の校舎、施設、設備の老朽化に対処し環境の改善を。災害時に備え校舎新築等が必要。(地)(中)(保) ・エアコンを完備し授業に集中できる学習環境を整えてほしい。(中)(保) ・ICTの積極的活用などによる学習環境の整備を求める。(地)(中)(保) ・AI・オンデマンド・双方向通信等ICT教育の推進を。(地)(中)(保) ・私立高校は「探究的な学び」やICT教育が進んでいる。(地) 	<p>○ICT環境の充実を図ります。また、外部人材・専門人材の活用を進めます。</p> <p>○施設・設備の老朽化対策を計画的に進めるとともに、生活環境(エアコン、洋式トイレ等)の整備を進めます。</p> <p>(方針3)</p>
教員の資質向上・業務改善について	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究的な学び」推進のために教員の意識改革と授業改善を望む。教員の研修も必要。(地) ・「探究的な学び」をすすめるにあたって、教職員の人的な配置や研修はどのように進めていくのか。(地) ・高校教員の指導力向上に期待。一方で、授業改善のためには教員の多忙化解消も必要。(地)(保) ・教員には生徒と向き合う時間が必要である。改革推進による教員の負担増を懸念する。(地) ・部活動の外部委託と教員の教育活動への専念を求めたい。(地) ・生徒に寄り添う先生、親しみやすく相談にのってくれる先生を望む。(中) ・多様なキャリアを持つ教員を増やしてほしい。(保) 	<p>○「探究的な学び」の指導力を向上させるために、「探究的な学び」を普及・推進していくリーダー的な教員(信州学コア・ティーチャー)の養成に努めるとともに県内外の先進校への視察をもとにした校内研修を充実させます。また、教育機関等への派遣研修を推進し、柔軟な思考と幅広い視野を持つ教員の養成に努めます。</p> <p>○教員が授業に専念できる環境づくりのためには、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、部活動外部指導者等の専門人材の配置を検討します。</p> <p>(方針3)</p>
予算の確保等について	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな高校づくり」は十分な予算確保で施設設備の充実を。(地)(保) ・財政面の充実、教育予算の確保、財政的な裏付けを求める。(地)(保) ・財政的な説明も受けたい。予算も示して議論を進めるべき。(地) ・交通インフラの整備や生徒の通学負担軽減を求める。(地)(保) 	<p>○必要な予算の確保に努めてまいります。</p>
生徒の通学への配慮について	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地、豪雪地の通学手段や安全にも配慮した高校再編を。(地) ・通学しやすい場所に高校を設置してほしい。(中) 	<p>○新たな高校配置は、地理的な条件や通学の利便性に配慮することに加え、地域の子どもたちを地域で育てる観点からも、実質的な生活・通学圏域である旧12通学区単位を基本に検討します。</p> <p>(方針5)</p>

項 目	ご意見、ご質問	回答・コメント
今後の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で主体的に検討する「考える会」「地域協議会」の設置を。(地) ・再編の着実な推進を。県主導による推進、県教育委員会のイニシアティブを求めたい。(地) ・教育委員会だけでなく行政の他部署と連携、調整を図るべき。(地) ・人口減少をくいとめるための県行政からのアプローチを求めたい。(地) ・県の考えや今後の再編スケジュールを早めに提示してほしい。(地) ・第1期高校再編の成果と課題を明確にし、検証結果の公表を。(地) ・周知が不十分で県民は「学びの改革」の内容を理解していない。(地) ・今後どのように進めていくのか。(地) ・意見交換の機会はこれからもあるのか。(地) 	<p>○地域懇談会やパブリックコメントを実施するとともに、産業各界、大学、高校長会等との意見交換を実施します。また、地域での協議を推進するために旧 12 通学区ごとに「高校の将来像を考える地域の協議会」を順次設置します。</p>
地域懇談会の内容・運営方法等について	<ul style="list-style-type: none"> ・このような会を開き、改革を進めることは良い。多くの情報が得られ地域を考える機会となった。(地) ・「学びの改革 実施方針」の内容を知りたかった。(地) ・統廃合を前提とした地域懇談会はやめてほしい。(地) ・各校の取組や魅力づくりの発言は必要ないのではないか。(地) ・各校の PR の発言時間が長すぎる。発言時間を制限する必要あり。(地) ・地域懇談会では少人数グループで話し合いをすべき。(地) ・説明の中で、平成 43 年度のシミュレーションは必要ない。(地) ・財政担当者も地域懇談会へ参加してほしい。(地) ・次期学習指導要領に則った授業改革が必要だが、そうした意識の薄い教員の発言があり残念。(地) ・高校の先生の発言に違和感を覚えた。地域懇談会は労使交渉等の場ではない。(地) ・地域懇談会は、自分の学校を残せという意見を言いあう場ではない。(地) ・地域の声を聴く機会をもっと設けてほしい。(地) ・実施方針(案)作成に向け、再度、地域懇談会を開催してほしい。(地) ・地域懇談会以外でも意見聴取を実施してほしい。(地) ・一部の意見(同窓会や産業界)でなく多くの人の意見を聞いてほしい。(地) ・県教委は現場に寄り添う姿勢を示してほしい。(地) ・県教委と教員の意識の乖離は問題ではないか。(地) ・出された質問にそれぞれ回答すべき。回答が不十分な部分もあり丁寧な回答を求めたい。(地) ・回答に対して質問や意見を言えるようにしてほしい。(地) ・当日答えて頂けなかった回答は HP 等で示してほしい。(地) ・地域懇談会の意見やアンケート結果を公表してほしい。(地) ・保護者が出やすい日時にしてほしい。(地) ・事前の周知を十分に行ってほしい。周知方法も改善してほしい。(地) ・小中学校への急にして無理な出席依頼はいただけない。郡PTA組織を通じた参加依頼を行うべき。(地) 	<p>○ご意見として今後の推進の参考とさせていただきます。</p>

以下は地域懇談会において寄せられたご意見、ご質問の中で、各地域あるいは個別の高校に関するもの

地区名	各地域あるいは個別の高校に関するご意見、ご質問	回答・コメント
北信地区	<p>【旧第1通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧1区は第1期再編を経ている。これ以上の再編には反対。 ・全県一律でなく、飯水地域の実情に合った再編基準を求める。 ・下高井農林に福祉科を。 ・飯山高校のスポーツ科は、プロの指導者を置くべき。 <p>【旧第2通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴い高校再編は必要。中野市に1校、須坂市に1校の普通科が現実的だと思う。 ・多部制・単位制の学校または学級を設置してほしい。 ・須坂上高井、中野下高井の子どもたちが地元にとどまる高校づくりを望む。 <p>【旧第3通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3区の都市部は他区からの流入が多い。地元の中学生在が公立校に入れるように各校の存続や規模の確保を望む。 ・旧3区では、私立・高専・市立・県立と多くの選択肢がある中で、各校の魅力づくりをさらに推進すべき。 <p>【旧第4通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋代南高校に、多部制・単位制の設置を。同窓会・PTAとしても強く望む。 ・工業の町にある坂城高校に工業系の学科を。 	<p>○今後の検討の中で参考にさせていただきます。</p>
東信地区	<p>【旧第5通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地区からの流入増により地元の生徒が地域外に流出せざるを得ない現状を改善してほしい。 <p>【旧第6通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や地域における高校教育の将来を展望し、小諸商業高校と小諸高校は同窓会を中心に統合の方向で検討を開始している。地元自治体を交えた協議を開始したい。 ・中学3年生のために望月高校の今後のあり方を早めに決めるべきだ。 ・望月高校の再編はやむを得ない。 ・蓼科高校と望月高校の同窓会の話し合いが必要だ。 ・望月高校の存続を望む。第2期再編で検討することを求める。 ・東信地区に中高一貫校を設置すべきである。 ・軽井沢高校に防災科を作してほしい。 ・佐久地域への家庭科の設置を望む。 	<p>○今後の検討の中で参考にさせていただきます。</p>
南信地区	<p>【旧第7通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡谷東高校は現状4学級規模だが学校の魅力づくりが奏功し県下でも志願倍率の高い人気校になっているので現状の4学級での存続を強く望む。 <p>【旧第8通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上伊那地区では将来を見とおして都市部校の統合を推進すべき。 ・上伊那全体の高校の適正配置を考えれば地域高校を残す視点も必要。 ・学区を越えた再編計画の視点(例えば赤穂と松川)を求める。 <p>【旧第9通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那谷ではニア開通後を見通した高校のあり方を考えるべきだ。 ・資格取得を前提としたコース制を導入してほしい。(阿南高校の福祉コースは資格が取れない) 	<p>○今後の検討の中で参考にさせていただきます。</p>

地区名	各地域あるいは個別の高校に関するご意見、ご質問	回答・コメント
<p>中信地区</p>	<p>【旧第 10 通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの進路希望実現のため木曽青峰高校に普通科を増やしてほしい。 ・木曽地域の特色を活かした職業科が必要だ。 ・専門学科の全国募集実施を要望したい。 ・木曽の2校を維持するでは話は進まないの、各方面から具体的な企画提案会を実施してはどうか。 ・子どもが木曽から岐阜県等に出て行かないような学校づくりを求める。 ・高校は地域活性化の要。木曽の高校や学級数をこれ以上削減しないほしい。 <p>【旧第 11 通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色のない松本市内普通科は4校も必要ないのではないか。 <p>【旧第 12 通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大北地域における幼保・小・中から高校までの連携体制構築を求める。 ・大町岳陽高校の学究科や白馬高校の国際観光科設置といった当地域における第1期再編の成果を今後の検討に反映を。 ・12 区では 11 区との関連を踏まえたうえで高校再編をしてほしい。 ・12 区の高校に看護科・介護科の設置を検討したらどうか。 ・生徒の通学利便性から池田工業高校から大町岳陽高校への定時制課程の移管を。 ・池田工業は南安曇農業や穂高商業と統合という構想があっても良い。 ・白馬高校存続は地域の希望。地元自治体の財政負担を含む英断を無にすべきでない。 	<p>○今後の検討の中で参考にさせていただきます。</p>

以下は産業界及び大学との意見交換において寄せられた主なご意見等

産業分野等	各界からの主なご意見等	回答・コメント
林業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・林業スペシャリスト育成に向けた、林業大学校や上松技専、信大との連携の促進を求める。 ・小中学校で「木育」の講師を林業系学科の生徒が行うことで、地域を巻き込んだ活動につながる。 	○今後の検討の中で参考にさせていただきます。
経済4団体 (商・工業関係)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業科、商業科、工業科間で連携を深めることにより、学科を超えた発想力の育成を目指す。 ・グローバル化の中で、地元でも、海外でも活躍できる力や気概の育成が必要である。 	
農業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・経営感覚を育成するためには、県費でなく独自資金により生産・加工・販売等を行う実践的な農業経営体験が有効である。 ・農業スペシャリスト育成に向けた、農業科から農業大学校への進学を促進を求める。 	
建設関係	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている、資格取得に向けた講習会や、実践的な実習指導等を今後も継続したい。 ・施工管理等、教員が苦手とする実務分野の教員研修を実施することで、資格取得の促進を図りたい。 	
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ・「福祉マインド」を育てるためには、実習などで福祉の現状を知ることが大切である。 ・教員主導でも、生徒が動き出すきっかけを作してほしい。動き出して、課題を発見し、それを解決することにより、達成感を感じる。 	
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ知識を実習で確かめることにより、課題を発見し、解決する力が育成できる。 ・地域独自のテキストで郷土を学ぶ授業を展開することにより、地域を語る素養を育成できる。 	
大学関係	<ul style="list-style-type: none"> ・高校と大学が協働して地域を考える取組を行い、地域貢献につなげたい。 ・授業に限らず部活動等での連携も進めたい。 ・ICT等で遠隔通信を行うことにより、直接の訪問が困難な遠隔地の高校との連携も可能になる。 ・グループワークや討論以前に、その基盤となる対話力や対人スキル、文章理解力や記述力等の向上が必要である。 	